

関東の拠点再編 加速

都西部方面送 埼玉から西東京に変更



アイカ工業

運転時間2時間短縮

アイカ工業が関東圏での物流拠点の再編を加速させている。東京都西部方面にはこれまで、白岡倉庫（埼玉県白岡市）から配送していたが、24日以降、新たに設けた西東京デポ（東京都日の出町）から配送する。慢性的な人手不足の中、配送先により近い場所に拠点を設けることで、ドライバーの運転時間を1日当たり2時間短縮。きめ細やかなサービスを提供する。（高橋朋宏）

西東京デポは、2017年6月に同社が整備した東京品川ベイデポ（大田区）と同様、小野運送店（小野正彦社長、品川区）が運営する。東京品川ベイデポも、ドライバーの運転時間短縮などを目的に、都心向けの発送拠点を郊外から都心に移すために開設した。

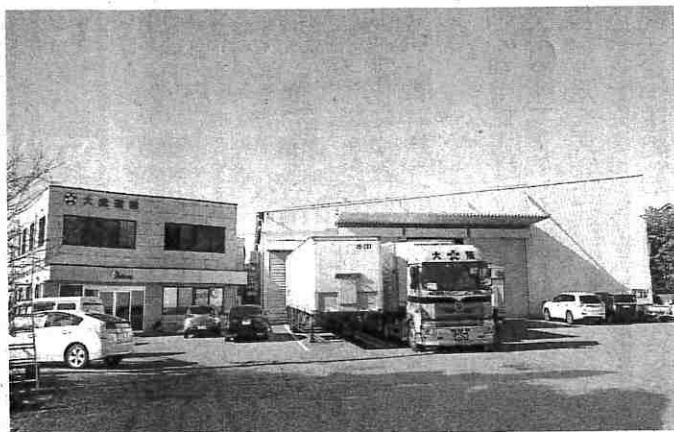
西東京デポは首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の日の出インターチェンジ（IC）に隣接。1千平方メートルの敷地に荷さばき庫と事務所を置く。1千平方メートルの敷地に荷さばき庫と事務所を置く。

倉庫と事務所を置く。再編により、ドライバーの運転時間は1日当たり2時間程度短縮される見通しだ。同デポには全国の工場から荷物が運ばれる。納品された荷物が、タイムリーに仕分け・出荷される通過型（IC）のセンターで、無駄な保管費用を削減する。ただ、一部保管機能は完備している。荷受け場のセキユリティーを強化し、夜間無人搬入システムを導入、省人化も図る。東名高速道路や中央自動車道から圏央道へのアクセスがよく、東京都西部、北関東、東北地方へ向かう荷物の仕分けや積み替えなどをクロスドッキングすれば、積載効率の向上や運行車両・運行時間の削減が実現する。

立ち寄り後の空車回送もスムーズにできるため、ドライバーの拘束時間を減らせるという。白岡倉庫を拠点として行っていた広域配送から、地域に根差した配送に移行することで、きめ

細やかなサービスを提供する。また、新たに山梨県への定期配送も計画している。更に、全国で物流拠点の再編を進めており、18年度内に一段落させる方針。並行して物流効率化に向けた情報システムの構築も進め

18日の開設式で、アイカ工業の安川浩保物流部長は「物流拠点の配置を最適化することで、慢性的な人手不足を抱える物流業界の労働条件を改善するとともに、サービス面を強化して物流機能で付加価値を生み出す取り組みに注力する」と述べた。



大虎運輸

従業員が敬遠する長距離輸送を極力減らす

大虎運輸（梶本幸司社長、大阪府四條畷市）は、全国に拠点を展開し、中継輸送を行うことでドライバーの負担軽減を図っている。従業員が敬遠する長距離輸送を極力減らし、コンプライ

中継輸送

アンス（法令順守）に力を度積み入れることで企業イメージを向上。人材確保にも役立つ。5年前から地方で中継輸送に取り組んでいたが、1月に本格化。広島・神奈川では中間に位置する竜王営業所（滋賀県竜王町）で、今